

心理学・教育学委員会
教育学分野の参照基準検討分科会
(第24期・第1回)

議事要旨

日時 平成30年3月30日(金) 10時00分～13時00分

会場 日本学術会議 6-A(2) 会議室

出席者： 小玉委員、志水委員、本田委員、松下委員、生田委員、岩瀬委員、小川委員、小山委員、杉本委員、中坪委員、中山委員、西岡委員、浜田委員、松浦委員、宮崎委員、笠委員、高野委員、深堀委員、【参考人】広田連携会員

欠席者： 鈴木委員

- 世話人である松下委員より、資料に基づき、分科会の設置目的、審議事項についての説明があった。
- 各委員が、専門分野、ならびに教育学・教職教育のどちらにより関心があるかについて自己紹介を行った。

議題

(1) 役員を選出

- 世話人である松下委員より、下記の提案があり、承認された。
 - ・ 委員長 松下佳代
 - ・ 副委員長 小玉重夫
 - ・ 幹事(事務局) 深堀聡子、西岡加名恵

(2) 分科会で扱う課題に関連する状況の紹介、交流

≪報告1≫ 広田照幸連携会員「教育学分野の参照基準(試案)」

- 広田連携会員より、配付資料に基づき、参照基準の作成が求められるようになった経緯、日本学術会議に設置された「大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会」から文部科学省への回答、参照基準の主要な構成要素と作成上の留意点などについて報告があった。
- 続いて質疑が行われ、広田連携会員から下記の補足説明・回答がなされた。
 - ・ [抽象的だと使いにくいということもあるのではないかと]という質問に対し] どの分

野であれ、実践志向・教養志向があるなどの多様性があり、多様性を排除しない抽象度を保つことが重要。参照基準は、個々の大学や教員が肉付け・解釈して使うべきもの。

《報告2》 深堀聰子委員「Tuningにおける教育分野（教育学／教員養成）の参照基準」

- 深堀委員より、資料に基づき、欧州高等教育の質保証（チューニング）の概要、欧州のチューニングならびに英国 QAA における教育学分野の参照基準、欧米の取り組みから得られる示唆について報告があった。
- 続いて、質疑・意見交流が行われ、下記のような意見が出された。
 - ・ **Teacher education** に現職教育が含まれるかどうか、確認が必要である。
 - ・ 参照基準は何のために作るのか、方向性を明確にする必要がある（世界の標準と一致させるのか。どのように活用されるのか）。

《報告3》 高野和子委員「教職課程コアカリキュラム」

- 高野委員より、資料に基づき、「教職課程コアカリキュラム」の背景と経緯、現況、拘束力の根拠、問題点について報告があった。さらに、イングランドの資格制度についての紹介の後、日本への示唆について報告があった。
- 続いて、質疑・意見交流が行われ、下記のような意見が出された。
 - ・ 学術会議としては、コアカリキュラムありきではなく、学問的本質を先に考えて作成することが重要である。
 - ・ 参照基準がコアカリキュラムを問い直す意義を持ちうるのではないか。

(3) 今後、重点的に取り組むべき課題について

- 松下委員長より、下記の日程概要が提案され、承認された。
 - ・ 平成30年6月か7月： 言語・文学分野、薬学分野の参照基準について、作成を担当された委員にご報告いただく。
 - ・ 平成30年9月：内容は未定。
 - ・ 平成31年3月16日：教育関連学会連絡協議会で、検討いただく。
 - ・ 平成31年9月：公開シンポジウムを開催し、中間報告を行う。
 - ・ 平成32年3月：公開シンポジウムを開催し、最終案を報告する。
 - ・ 平成32年9月30日までに、最終報告（参照基準）を提出することが必要。
- 平成30年6月か7月、9月の日程調整は、後日、メールにて行う。

以上